慶應義塾創立１５０年記念　未来先導基金　2026年度追加公募プログラム　　参加無料

ACCESS++

協生環境×情報アクセシビリティ

誰もが学べる読書とWEBのキャンパスづくり

本ACCESS++プロジェクトは、情報にアクセシビリティというプラスの価値を付加することで、慶應義塾のすべての構成員が情報にアクセスできる環境を整備することを目的とします。障害のある当事者および専門家と連携して実践的な情報アクセシビリティを推進しつつ、アクセシビリティの理念を体験的・共感的に理解します。参加者は読書アクセシビリティユニットとWEBアクセシビリティユニットに分かれ、それぞれの専門分野においてワークショップやフィールドワークを通じた課題解決型の実践を行います。なお、本ACCESS++プロジェクトに参加できるのは、原則として、慶應義塾大学の学部生・大学院生・教職員です。

１．アクセシビリティ研修（理念理解の深化）

障害平等研修（Disability Equality Training：DET）を受講します。

２．読書アクセシビリティ活動（RAX++）

- RAX++では、プリントディスアビリティのある学生の読書環境を改善するため、図書館資料のアクセシブル化（テキスト化・音声化等）、発達障害等の学生向け音声教材の製作ワークショップ（NPOエッジ連携）、製作した図書の国立国会図書館「みなサーチ」への登録、アクセシブル閲覧アプリの活用評価等の活動を実施します。
- 将来的に協生環境推進室@easeサポーター等が関わることが出来る持続可能な読書バリアフリー実践モデルを構築します。

３．WEBアクセシビリティ活動（WAX++）

- WAX++では、慶應義塾のWEB環境のアクセシビリティ向上を目的として、学内WEBサイトのアクセシビリティ診断、スクリーンリーダー等によるユーザビリティ評価、WCAGおよびJIS X 8341-3に基づく改善提案、WEBアクセシビリティ評価手法の体系化等を行う計画です。
- WEBサイトの更新やコンテンツ追加の際にアクセシビリティが低下することを防ぐため、学生だけでなく教職員も対象とした研修を実施します。
- 研修では、WEBアクセシビリティの基本理念、WCAGおよびJIS規格の理解、スクリーンリーダー体験、アクセシブルなコンテンツ作成（AI等を活用した図表への効果的なオルタナティブテキストの作成方法を含む）等を扱い、大学全体でアクセシビリティを維持するための体制づくりを進める計画です。

４．成果の発信【報告会の開催】

活動報告セッションを開催し、学内外に向けて成果と課題意識を発信します。また、提案をまとめた報告は、大学の関連部門（図書館、広報室、ITセンター等）に提出し、具体的な改善につなげていきます。

＜参加希望登録＞　詳細は以下のURLをご覧の上、ご登録をお願います。

https://psylab.hc.keio.ac.jp/project/access-plus/